

# 七夕

七夕は五節句（一月七日（人日）、三月三日（上巳）、五月五日（端午）、七月七日（七夕）、九月九日（重陽））の一つで、星祭りとも呼ばれています。七夕には種々の言い伝えがあり、それらが複合して現在の七夕の習慣が出来上がりました。

その一つは、中国に伝わる牽牛星と織女星の話と、日本に古くから伝わる棚機津女の話に基づいています。天の川をはさむ二つの星、東にある牽牛星（彦星）、西にある織女星（織姫）と西にある織女星（織姫）と琴座の主星（ベガ）、この二つの星に纏わる伝説によると牽牛は若い牛飼いの青年、織女は川辺で機を織る天帝の娘でした。ともに働きの者でしたが、天帝が織女を牽牛に嫁がせると二人は夢中になってしまい、牽牛は牛を飼うことを止め、織女は機を織ることを忘れてしまいました。それを見て天帝は怒り二人を引き離し、一年に一度の七月七日の夜だけ逢えるようにしたと云う物語です。この物語から派生して、中国に乞巧奠と云う行事が生まれます。これは、織女が機織の名手であることに因み七月七日の夜、女性たちはこの星を祭って、自分達も手芸が上達するようにと短冊に書いて願う行事です。この中国の行事が奈良時代に日本に伝わり、日本に古くから伝わる棚機津女の信仰（一年に一度の神の訪れを水辺の機屋で待ち、神と共に一夜を過ごす聖なる乙女の信仰）が合わさって、現在の七夕が生まれました。なお、願い事の内容については当初の手芸の上達から、江戸時代になると寺子屋の普及などに伴い手習い事の上達を願うようになりしました。現在のように「お願い事」全般となったのは後の事です。

もう一つは、古くからあった日本固有の民俗行事です。これは盆の先祖祭につながるもので、盆の前に穢れを祓い清める行事です。七夕の日には、水浴びを大切な行事とした所が多くあります。また水浴びを「ねむり流し」とか「ねぶた流し」とも言います。東北の三大祭りの一つである「ねぶた祭り」も、本来は穢れを水に流す禊の行事でした。ねぶたは「眠たさ」のことで、睡魔を追い払う行事です。旧来、町を練り歩いた人形や燈籠は、川や海へ流されました。さらに地域によっては、七夕の笹を七月六日に飾り、翌七日には海に流すという所もあります。

こうして考えますと、盆と七夕の関係は一続きの行事として理解 出来ます。しかし時代が経ち、盆は先祖祭りの意味合いが強くなり、七夕は星祭りの意味合いが濃くなってきました。

## 【参考資料】

「現代こよみ読み解き事典」 岡田芳朗・阿久根末忠 編 柏書房

神道事典 國學院大學日本文化研究所

「日本人のしきたり」 飯倉晴武 青春出版社